

釧路湿原の植物

釧路湿原では、スゲ、ヨシ、およびミズゴケ湿原や、ハンノキ林、そして春から秋にかけて開花する多くの顕花植物を見ることができます。これらの植物は、この湿原の土壌で繁栄しています。湿原の地盤は3つの層で構成されています。最上層は、完全には分解されなかった植物の堆積物である泥炭堆積物で成っています。次の層は泥や砂、最下層は小石や貝殻の化石で成っています。約4,000年前までは、この湿原は大きな湾の一部でした。気候の寒冷化に従って海が後退し、湾の入り口に砂丘が形成され、海から完全に切り離されました。約3,000年前に、この湾は汽水沼に変わり、今の湿原の基となりました。湿原は海霧、雨、河川からの大量の水を保持し、浄化する機能があり、多くの植物の命を支えています。

ヨシ・スゲ湿原

釧路湿原は、主にヨシとスゲで覆われています。スゲは高さ60～80cmに成長し、ヨシは2m以上に成長します。これらの2つの植物は、通常同じ場所では繁殖しません。それらの繁殖地は、水の深さや透明度、水の下の方の土壌によって異なります。ヨシは、湿原を潤す河川から栄養分を得て繁殖し、スゲは、水位のより高い池や川を覆い、日の当たる場所で繁殖します。

ミズゴケ湿原

ヨシとスゲの下は泥炭層になっています。毛細管現象と呼ばれる作用による高吸収性を有するミズゴケが密集すると、地下水面が上昇します。スポンジのように水を保持するミズゴケは、イソツツジやヒメシャクナゲなどの高地や寒冷に強い植物の成長に理想的な条件を提供します。

ハンノキ林

ハンノキは、湿原で林を維持できる数少ない樹木です。周辺の丘陵から流入する砂や河川から持ち込まれた土壌が蓄積している地域には、ハンノキ林が形成されます。窒素固定菌との共生関係で、栄養素の欠乏にもかかわらず、ハンノキは泥炭湿地で繁殖することができます。この細菌は木の根に窒素を生成し、泥炭を豊かにします。そうした根が最終的に死ぬ前に、ハンノキは20－30年間湿

地で生き続けることができます。腐った切り株からは、新しい芽が出て自然のサイクルを継続していきます。